

モンサント：ガン誘発除草剤の隠ぺいを「科学者に強要」

——法廷供述

犠牲者が死までの数か月を使って、薬品巨人企業と法廷で争う

【訳者注】モンサント社の悪事については、そのおびただしい例を拾い読みしただけでも、あきれるほどだが、「その訴訟が成功したためしがない」というのは、アメリカが法治国家でなくなっている証拠である。2015年5月の、モンサントに対する世界一斉蜂起のニュースを見ただけでも、<http://www.dcsociety.org/2012/info2012/150525.pdf> その事情はわかるだろう。しかし、この問題に限っては、専門科学者の悪事への協力がなくては、成り立たないはずだ。モンサントだけではない。膨大な数と思われる細菌学者（細菌は兵器として認識されている）、毒ワクチン製造にかかわる専門家、気象破壊に協力する専門家、こういった“科学者”が、科学者の名をけがして悪に加担している。こういう連中は世界を滅ぼしても、自分の収入（あるいは名声）さえ保証されればいいと思っている。メディアという恥ずべき商売と同じ、彼らは商売人である。

Jay Greenberg, www.neonnettle.com

July 11, 2018



3児の父 DeWayne Johnson は、モンサントの除草剤を使った結果、癌によって死につつある

ある法廷供述により、薬品巨大企業のモンサント社が、「科学者たちを強制して」彼らの除草剤は使っても安全だと宣言させ、ガンのリスクを隠ぺいさせていたことがわかった。これは、このグローバルな大企業に対する画期的な訴訟によるものである。

モンサントは、その除草剤の人気商品 Roundup に関連する癌リスクを、抑圧隠ぺいしたとして起訴されている。

この農薬と農業バイオテクノロジー会社は、Roundup の使用から生じたガンのために死にかかっている3児の父、ディウエイン・ジョンソンによって訴えられている。

かつて整備員だったジョンソンは、ガンがすでに身体中に広がった今、あと数か月の命だと言われている。

彼は、残された最後の数週を利用して、この巨大企業の製品の恐ろしい副作用を暴くことによって、彼らに対する法廷争いをしている。

「モンサントは、恥知らずにも脅しまで用いて、独立調査研究者たちを相手に、戦おうとしている」と、ジョンソンの弁護士 Brent Wisner は言った。

この弁護士は、モンサントの内部 E メールを提出し、この農薬会社が、長年にわたって批判的な研究と専門家の警告を拒絶し、彼らの製品について、好意的な分析を書くように求めていたことを証明した。

「彼らは科学と戦っていたのだ」と、ウィズナーは言った。



サンフランシスコの、ある込み合った法廷室の中でウィズナーはそう語り、身体中にガンが広がったカリフォルニアの男、ディウエイン・ジョンソンに代わって熱弁を振るった。

ガーディアン紙によれば、ジョンソンは、Roundup という銘柄で売られている化学薬品はガンを起こす、という申し立てによってモンサントを訴えた、最初の人物だった。

<https://www.theguardian.com/business/2018/jul/09/monsanto-trial-roundup-weedkiller-cancer-dewayne-johnson>

<https://www.theguardian.com/business/2018/may/22/monsanto-trial-cancer-weedkiller-roundup-dewayne-johnson>

これまでに、全米で何千という人々が、これに類する法的訴えを起こしている。

<https://usrtk.org/pesticides/mdl-monsanto-glyphosate-cancer-case-key-documents-analysis/>

その最初の発言で、モンサント側の弁護士 George Lombardi は、長年にわたって、調査団の見解は会社を支持するものだと言った：——

「圧倒的な科学的証拠によって、グリフォサートを基にする製品は、ガンを誘発せず、ジョンソン氏のガンはそれによるものではない。」

この訴訟に特に意味があるのは、一つには、裁判長がジョンソンの弁護士に、科学的な論証を提出することを許可したからである。

<https://www.theguardian.com/business/2018/may/22/monsanto-trial-cancer-weedkiller-roundup-dewayne-johnson>

<https://usrtk.org/wp-content/uploads/2016/09/Judges-order-in-Johnson-Case-ahead-of-trial.pdf>

この訴訟は、世界で最も広く用いられている除草剤「グリフォサート」をめぐるもので、これはモンサント社が、1974年に、「ラウンドアップ」の名で商品化し、人間にも環境にも害を与えず、ほとんどすべての雑草を駆除する、テクノロジーの画期的製品として宣伝されたものである。

しかし年月が経つにつれて、そうでないことを示す研究が現れ、2015年には、WHOの国際ガン研究機関（IARC）が、グリフォサートを「人間に対して発ガン作用をもつ可能性のある」と分類した。

https://www.iarc.fr/en/media-centre/iarcnews/2016/glyphosate_IARC2016.php



モンサントの従業員は、
彼らの除草剤を扱うと
き防護服を着ける

「ラウンドアップ」製品は 130 か国で登録され、100 以上の農作物で使用が認められ、一方、グリフォサートは食品、さまざまな水源、農業労働者などの尿の中に発見されている。
<https://www.theguardian.com/us-news/2018/apr/30/fda-weedkiller-glyphosate-in-food-internal-emails>

多くの国が、グリフォサートの販売と使用を、禁止または制限する政策を取っている。
<https://www.baumhedlundlaw.com/toxic-tort-law/monsanto-roundup-lawsuit/where-is-glyphosate-banned/>

ジョンソンは、サンフランシスコ北のベニシア学区の整備員として働いており、ラウンドアップは自分で選んだものだった。

弁護士たちは裁判員たちに向って、ジョンソンがこの化学薬品に常時さらされ、最後には 2014 年、42 歳の時、non-Hodgkin lymphoma (NHL) と診断された後の、皮膚上の病巣や発疹の写真を示した。

「単純な事実は彼が死にかけていることで、それは時間の問題です」と、ウィズナーが法廷で言うと、彼は首をうなだれ、彼の妻は隣の椅子で泣いた。

ウィズナーは、この裁判には 10 人の、現在および過去のモンサント社の社員のコメントが読まれるはずだと言い、さらに裁判中に手に入れた企業内部の文書も、声に出して読んだ。

グリフォサートにさらされることを批判する、ある研究に対する反応として、製品保護主任の Donna Farmer は、ある Eメールにこう書いている：「これにはどうやって戦うのだ？」

<http://baumhedlundlaw.com/pdf/monsanto-documents/41-Internal-Email-from-2008-Monsanto-Executive-Long-Aware-of-Glyphosate-Link-to-non-Hodgkin-Lymphoma.pdf>



何千という人々が、健康へのリスクについてモンサントと戦ってきたが、成功したためしがない

ウィズナーはまた、ファーマーからの E メールを示して見せると、彼女はそこで科学について一般にどう話せばよいかを、同僚に指南していた：——

<http://baumhedlundlaw.com/pdf/monsanto-documents/27-Internal-Monsanto-Email-You-Cannot-Say-That-Roundup-is-not-a-Carcinogen.pdf>

<https://www.baumhedlundlaw.com/toxic-tort-law/monsanto-roundup-lawsuit/monsanto-secret-documents-page-six/>

「ラウンドアップがガンの原因にならないとは言えません。」（と言え）

モンサントの弁護士は後に、このコメントはコンテキストから引き抜かれて、誤解を招くように示されたものだと言った。

また、明かされた戦略的な企業文書は、モンサントの PR 計画を明らかにしており、それは IARC のグリフォサートの分類が発表されるのに先立って、「一斉に抗議の声をあげよ」という指令だった。 <https://usrtk.org/pesticides/how-monsanto-manufactured-outrage-at-iarc-over-cancer-classification/>

・・・(あと1頁あまり省略)